

「大丈夫。フリーターでも生活できてるし」「どうして就職しなきゃいけないの」
厚労省が委託する全国の地域若者サポートステーションを訪れる人の20〜30代は大半者。今、大卒の肩書がありながら就職も進学もしていない人は、全国で8万人以上に上るといわれている。
「就活が面倒」「働く意味が分からない」という人や、「なぜ、働くのか」、その理由を探して見つからない人も少なくない。
フリーターが悪いわけではない。仕事より大切なことだってある。たった一度の人生を、好きなように生きる選択もいいだろう。でも、ほんの少し、先のことまで考えてみては。

人は毎年一つずつ年を重ねる。10年、20年後の自分を想像してみよう。結婚したら、子供が生まれたら、年を取ったらなど、普段より長いスパンで自分の人生を見つめてみると、生活の糧に、家族を養うために、夢を実現するためなどの、自分だけでなく「誰かのために」という気持ちが増えるはずだ。

地方就職という選択肢

昨年、日本創生会議が発表した将来人口予測によると、2040年、登米市の人口は約5万人まで減少すると推計されている。人口減少は、消費・経済力の低下を招き、古里はもとより日本全体にとって大きな負荷になっていく。
一方で今、地方での暮らしを選ぶ人が増えつつある。ゆ

とりのある環境で働き、オフも満喫するなど、仕事とプライベートを両立できる働き方を求め、地方就職を選択する人たちがいる。
国、地方自治体や民間も地方移住を推進する取り組みを進めている。地方の「まち」に「しごと」をつくり出し、地方への「ひと」の流れをつくる取り組みが動き出している。

自分の生活を考えることは、古里の未来を考えることにもつながる。あなたの思いや行動が、周囲を元気にしたり、古里を活気づけたりすることもあるのだ。

今号は、登米市で働くことについて考える。これから踏み出そうとしている人も、まだ迷っている人も、人生の選択肢を増やすために読んでほしい「きっとダイjob」。

若者の勤労観

ゆとり、さとり世代と呼ばれる若者たち。彼らは仕事に対して何を思い、どんな考えで向き合っているのだろうか。まずは、本音を聞き、認めることがスタートだ。

今どきの若者のつづき

- 市内20代男性**
バイトを転々としていた。いつまでもこんではだめだと思って地元の会社に就職したっちゃ。
- 市内20代男性**
今の仕事しんどいから、公務員にでもなっかな。
- 市内20代男性**
これまで正採用なし。両親が公務員なんで、働かなくてもなんとかなるべ。お金ねぐなったら、モノ売ればいいし。
- 市内20代男性**
大学中退して実家に戻った。家業継ぐことにした。でも、やる気なし。
- 市内20代女性**
今の仕事がやりたいことかと言うと自信がない。でも、転職しても同じくらい給料もらえるのかな…
- 市内20代女性**
付き合ってる彼氏と結婚する予定。結婚したら仕事したくない。ので、それまではバイトでいいかって。
- 市内20代女性**
この仕事はやりがいあるし、上司も認めてくれる。だから、結婚しても続けたい。
- 市内20代男性**
就職2年目。最初は、どうかなあって思っていたけど、お客さんにありがたうって言われて楽しくなってきた。
- 市内20代男性**
高校卒業後、専門に通っていたけど、それとは違うやりたい仕事を見つけた。親には迷惑かけてるけど、バイトしながら新しい目標に向けて勉強の日々。

やりたいこと、やりたい仕事

やりたい仕事に就ける人は、「自分は何をしたいのか」「どんな仕事が合っているのか」を知っている人です。
しかし、多くの人は、適職や天職について考える時間がないまま就職活動を始めます。そして

内定し、社会人生活がスタートします。
その結果、いざ仕事を始めたら「こんなはずじゃなかった」と隣の芝生が青く見え、現実とのギャップを感じる人もいます。仕事の楽しさは、遊びの楽しさ

とは違います。「やりがい」から得られるものです。「誰かの役に立っている」とか「社会に貢献している」とか、充実感や幸福感などから生まれるものです。
「やりがい」が「やりたい」につながることも少なくないのです。



ダイ きっとjob

だいじょうぶ